

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102277		
法人名	特定非営利活動法人 さわやか福祉ネットワークぎふ		
事業所名	グループホーム千寿庵万葉		
所在地	岐阜市加納村松町1-1-40		
自己評価作成日	平成24年7月6日	評価結果市町村受理日	平成24年9月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102277&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成24年7月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅で過ごしているような安心感を持ってもらい、家族と一緒に生活しているような暖かい触れ合いを大切にしています。最後までその人らしく生きられるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静寂な住宅地にあるホームは、民家を改造したもので、家庭的な雰囲気が十分に残っている。自治会に加入し、地域行事の情報を得て、利用者5名は地域の住民の1人として参加している。季節を感じられる行楽や散歩を行うことで日常の変化を作り出し、楽しく毎日が過ごせるよう支援している。利用者の滞在期間、職員の勤務年数もともに長くなり、気心知れた良い人間関係が構築されている。日常生活の中で身体機能の維持に努め、また、そのリスクへの予測や予防に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人として介護するものとしての基本姿勢をいつも心懸けてミーティング時に再確認しています。	家庭的な雰囲気と安らぎのある日々を提供できるように、出会いとふれあい学びあいを大切に、それを継続できるよう職員間でミーティング時や日常のケアの場面で確認しあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	床屋、スーパーなど近隣の店を利用しています。防災訓練、盆踊りなどの地域の行事に参加しています。	自治会に加入し、地域の情報は法人事務局を介して伝えられ、また、運営推進会議で地域の役員と直に話し合い、交流を図っている。近くの小学校で開催される盆踊りや防災訓練に、短時間であっても利用者と職員が参加するようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議で町内の役員の方々に参加して頂き役立つことがないか発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ミーティングで出された意見を報告してサービスの向上に生かすようにしています。	利用者家族、地域役員、市や地域包括支援センター職員、法人、ホーム職員が参加し、2ヶ月に1回開催している。社会の高齢者問題やホームからの利用者状況の報告などを基に、意見交換を行っている。家族が自身でホームへ来られない場合は法人事務局が支援し、参加できるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や日頃からの連絡を取り合い協力が得られるようにしています。	市町村担当者とは法人事務局を介し連携をとる場合が多い。運営推進会議で出た行政関係の質問に対し、その回答の連絡を受けるなど、協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠はしていません。身体拘束をしたこともなく、話し合いで拘束ゼロの意識向上を図っています。	身体拘束をしないケアを行うため、特に力を入れ、年1回の研修会を実施している。言葉使い、汚い言葉の禁止、子ども扱いしない、敬意をもった真摯な対応を心掛け職員間で確認し合い、虐待につながるケアのないよう取り組んでいる。	管理者は、身体拘束をしない学習を含め、職員一人ひとりの意識向上をめざし、職員が持ち回りで学習会の担当を担うなどの工夫で、さらに職員の力量を伸ばす取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、ミーティング等で情報交換を行い意識の向上を図っています。		

岐阜県 グループホーム千寿庵万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在自立支援事業を一人活用しています。内容について話し合いをします。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談の中で本人の希望を聞きだし不安がないように対応しています。リスクについての説明も行います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族を交えての意見の交換、アンケートの実施を行い、意見要望を反映するようにしています。	面会に訪れる家族は多く、訪問も継続的にある。居間や居室で接待し、利用者の様子を伝え、希望・要望を聞き取り、介護計画等に反映している。	家族と職員の会話の内容が介護計画に活用され、課題として検討されていることを伝え、また、面会に来られない家族への伝達方法の工夫などにも取り組まれない。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務やミーティングで意見交換を行い、話し合う機会を設けています。	職員の意見は、ミーティングだけでなく、日々の気づきにおいても、すぐにできることはそのつど取り上げ、反映している。大きな課題は事務局に上げ検討される。職員との交流会を年に1・2回行い、話しやすい職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	要望を聞く機会を設けて個々に対応しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のスキルアップのために研修を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会のメンバーと情報交換をして、わからない点は教えてもらうこともあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談を行い、家族、本人の要望を聞きだします。入居後はサービス担当者会議を行いケアプランに反映させます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係を築くために初期の段階で可能な限り話し合いをしてホームにきてもらうようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	権利擁護事業や福祉用具貸与など必要に応じて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	温もりのある会話、声かけ、スキンシップなど状況に合わせて対応しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の持つ悩み、不安など少しでも解消出来るように手助けしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに来てくれた方と一緒に花茶やコーヒーを飲んで、ゆったりと過ごしてもらうようにしています。	行きつけの美容室へ継続的に通う利用者がいる。美容室の人も利用者への理解があり、協力的である。自転車で訪問する友人が多く、職員は利用者と訪問者が楽しい時間を過ごせるよう支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性に合わせて声かけを行い良い関係を築き、トラブルが起きないように調整を図ります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示、要望をはっきりといわれる方がほとんどなので可能な限りこたえています。	会話が可能な利用者がほとんどであり、職員やケアマネジャーが聞き取りや観察の中で思いや意向を把握している。意思表示が困難な人には、生活のリズムの変化などから推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報及び日常の利用者との会話の中で把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、身体状況等を業務日誌や申し送りノートに記載して情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、スタッフが家族の意見を参考に話し合いをしています。訪問看護での看護師の助言を参考にします。	利用者・家族の意見や要望を踏まえ、介護計画を作成している。包括的自立支援シートを活用し、記録された本人の状態を参考に、医師や訪問看護師の意見も採り入れ、作成している。作成した計画の実践を定期的にモニタリングしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録を参考に改善点をミーティングで話し合い、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科医療、福祉用具レンタル等必要に応じて取り入れています。		

岐阜県 グループホーム千寿庵万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センターや病院、近所のお店など交流を図りながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の了解を得て定期的に嘱託医に往診してもらい、また訪問看護も受けています。	基本的にホーム協力医をかかりつけ医としている。入居前のかかりつけ医による往診が困難な場合に備え、入居時に本人・家族に同意を得て、協力医への受診を行っている。協力医の専門科以外の受診支援をホームで行ったこともある。協力医による、往診・訪問看護・24時間対応の体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間訪問看護を受けられる体制を取り定期的に往診も受けています。体調の変化等気になる点は相談してアドバイスを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	嘱託医を通じて迅速に対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	嘱託医と家族、本人の3者で方針を決めて方針が反映されるように対応します。ホームで出来ることを早期に家族に伝えます。	重度化した場合の指針とマニュアルはある。契約時に看取りに関する希望を確認し、状態の変化に伴い、その都度、医師と相談している。本人や家族が希望を直接、医師と十分話し合える場を作っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応を医師、看護師から助言をしてもらい、ミーティングで話し合いを行います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年は消防職員立ち合いの下で避難訓練を行いました。地域の防災訓練やホーム独自でも引続いて訓練を行っています。	年2回の避難訓練を実施し、避難場所はホーム前の駐車場で、実際に誘導も行っている。各居室の火災探知機と消防署直通の警報機が設置されている。消火器の期限確認や使用法の説明も受けている。災害時には、同系列のホームと協力し支えあう体制が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する声かけや態度に十分配慮して、対応の仕方について話し合いをしています。	一人ひとりを尊重した態度、示す表情にまでも注意深く配慮するケアに取り組んでいる。職員で相互に注意することも行っている。利用者の自分でやろうとする気持ちや、まだ出来るという本人の意思を尊重することで、安全面の確保が困難になる等の場面もあるが、職員の努力で支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	顔の表情や、態度、言葉などで何を希望しているか感じ取り話を聞くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調により入浴の方法を変えたり食事のメニューを変えたり、喫茶店に外出したりして希望に沿った生活をしてもらいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に服を選んでもらいまた化粧を手伝い、気分よく過ごしてもらえるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや味付けに合わせて提供を行っています。できる範囲で協力してもらい食事を楽しんでもらえるようにしています。	職員が交代で担当し、献立と料理を行っている。包丁を使って調理に参加する利用者もいる。季節のものを取り入れた献立は利用者の希望も聞き入れている。店の理解もあり、時には、利用者全員で外出に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	補助器具を使用したり栄養補助的な食品の提供など工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ポリデント、口腔ケアスポンジなどを利用して利用者の状況に合わせたケアをしています。		

岐阜県 グループホーム千寿庵万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行います。	日々の機能訓練が排泄の自立につながっている。職員は、利用者の運動能力の改善によるリスクを理解し、行動を制限せず、見守りを重視した取り組みを行っている。リフォームによりトイレを2ヶ所に増設した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の献立を工夫したりヨーグルトなどおやつに取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりに合わせた入浴方法で順番等スタッフが希望に沿えるように対応しています。	週2・3回の入浴を基本としている。一般家庭用のやや深い浴槽であるが、手すりやいす等を活用し入浴している。浴室の床や壁は、木で作られ、広くゆったりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動で適度な運動を交えたり、できるだけ昼間は起きていてもらえるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報の副作用等に気をつけて情報を共有します。体調に変化があれば訪問看護等で相談します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食堂でスタッフとお話をしている方、居間でゲーム等する方、その時に応じて対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活で外食や喫茶店などスタッフと一緒に外に出かけることも多く、個人的に友人や家族と外出される方もいます。	ホーム内は伝い歩き等で移動できても、戸外の移動には車椅子を必要とする利用者がほとんどである。3ヶ月に1回程、法人の車で、季節の花見や買い物、食事などに出かけている。利用者全員の健康に配慮し、車椅子の利用者も一緒に外出できるよう取り組んでいる。	

岐阜県 グループホーム千寿庵万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況に合わせて無理のない支援をしています。自分で管理されている人もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙やファックスを自由に使ってもらいます。手紙は本人に手渡し、後で確認を取ります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは清潔を心懸け、使用した後はチェックしています。花や写真など飾り、暖かい雰囲気が出せるように気をつけています。	明るく落ち着いた雰囲気であり、廊下は広く、車椅子での介助にも余裕がある。共用空間にも空調が整備され温度や湿度が調整されている。圧迫感のない書類保管用ロッカーが台所に整備されている。利用者は居間に自分のお気に入りの居場所が出来ていて、くつろげる場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋にいたい時とリビングにいたい時と本人の希望を優先させています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や食器を持ってきてもらうなど本人の希望に沿う形で対応しています。	それぞれの居室には、入居時に家族や本人が準備した家具を搬入してもらっている。家族の写真や好みのカレンダーを飾り、日々の生活の中で入れ替え、自分の部屋として居心地よく過ごせるよう、また、本人の好みの部屋になるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設備面で手摺や床材などスタッフが相談して対応しています。		